

## 調査結果のまとめ

### 1 まちづくりについて

#### (1) 市の将来像

将来の相模原市はどのようなまちであってほしいかたずねたところ、「社会福祉が進み、健康で安全に暮らせるまち」(48.8%)が5割近くで最も高く、次いで、「都市としてのいろいろな生活施設が整ったまち」(16.2%)、「産業が発展し、経済活動が盛んなまち」(8.6%)と続いている。

#### (2) 市に望む優先施策

相模原市に対してどのような施策を優先してほしいと思うかたずねたところ、「高齢者対策」(43.3%)が4割半ばで最も高く、次いで、「保険医療対策」(26.5%)、「防犯対策」(24.7%)、「雇用・勤労福祉対策」(21.2%)、「保育・児童対策」(20.3%)と続いている。

#### (3) 地域活動への参加状況

地域の活動にどの程度参加しているかたずねたところ、「参加している」(10.8%)と「ときどき参加している」(18.4%)の2つを合わせた《参加している(計)》(29.2%)は約3割となっている。一方、「あまり参加していない」(26.4%)と「全く参加していない」(42.9%)の2つを合わせた《参加していない(計)》(69.3%)は約7割となっている。

#### (3-1) 参加している地域活動の内容

地域の活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、主にどのような活動に参加しているかたずねたところ、「自治会活動(地域の盆踊り・運動会などを含む)」(80.4%)が約8割と最も高く、次いで、「子どもの健全育成を図る活動」(17.2%)、「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」(15.0%)、「消防・防災活動」(14.5%)、「地域安全活動」(11.3%)と続いている。

#### (3-2) 地域活動に参加して感じたこと

地域の活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、活動に参加してどのように感じたかたずねたところ、「地域の人々と交流し、顔が見える関係が作れた」(60.6%)が約6割で最も高く、次いで、「楽しく充実した時間を過ごせた」(30.6%)、「地域への愛着や親しみが増した」(27.3%)、「地域のために役立つことができ、嬉しかった」、「自分自身の知識が広がった」(各25.5%)と続いている。

### (3-3) 地域活動に参加していない理由

地域の活動に「あまり参加していない」または「全く参加していない」と答えた方に、参加していない理由をたずねたところ、「参加してみたいが、暇がないから」(24.4%)が2割半ばで最も高く、次いで、「参加してみたいが、機会がないから」(21.6%)、「健康や体力に自信がないから」(20.3%)、「めんどろだし、わずらわしいから」(19.7%)、「関心がないから」(18.4%)と続いている。

## 2 市のロゴデザインについて

### (1) 市のロゴデザインの認知度

市のロゴデザインを知っているかたずねたところ、「知っている」(38.0%)は4割近くとなっている。一方、「知らなかった」(61.2%)は6割を超えている。

## 3 オンライン学習による生涯学習活動に関する意識について

### (1) 今までに行った「生涯学習活動」の分野

これまでどのような分野の「生涯学習活動」をしたことがあるかたずねたところ、「生涯学習活動をしたことがない」(45.7%)が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「スポーツ・健康に関するもの(各種スポーツ、ジョギング、ダンス、健康法、医学など)」、「職業において必要な知識・技能に関するもの(現在の仕事に関係する知識や資格の取得など)」(17.9%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(15.1%)、「芸術・文化に関するもの(音楽、美術、華道、茶道、書道など)」(12.1%)と続いている。

#### (1-1) 「生涯学習活動」をする理由

何のために生涯学習をするのかたずねたところ、「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」(45.7%)が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「現在の仕事・学業や将来の就職・転職・進学などに役立てるため」(43.9%)、「健康の維持・増進のため」(28.3%)、「家庭・日常生活に活用するため」(22.9%)と続いている。

#### (1-2) 学習しやすい方式

どのような方式が学習しやすいかたずねたところ、「対面学習(公民館や大学などで講座を受ける)」(54.6%)が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「オンライン学習(オンデマンド配信)」(44.3%)、「オンライン学習(ライブ配信)」(19.2%)と続いている。

##### (1-2-1) 対面学習(公民館や大学などで講座を受ける)を選んだ理由

対面学習(公民館や大学などで講座を受ける)を選んだ理由をたずねたところ、「講師に直接質問ができるから」(49.4%)は約5割で最も高くなっている。次いで、「公民館や大学などに直接行って会場の雰囲気を味わいたいから」(45.0%)、「他の参加者と交流したいから」(40.5%)、「インターネットを利用していないから」(10.4%)と続いている。

### (1-2-2) オンライン学習（ライブ配信）を選んだ理由

オンライン学習（ライブ配信）を選んだ理由をたずねたところ、「自宅で手軽に受講できるから」(89.9%)は約9割で最も高くなっている。次いで、「講師に直接質問できるから」(31.1%)、「オンデマンド配信がよくわからないから」、「その他」(各1.7%)と続いている。

### (1-2-3) オンライン学習（オンデマンド配信）を選んだ理由

オンライン学習（オンデマンド配信）を選んだ理由をたずねたところ、「いつでもどこでも受講できて便利だから」(83.2%)は8割半ばで最も高くなっている。次いで、「何回でも視聴できて復習ができるから」(73.4%)、「仕事などで忙しく、決まった時間が取れないから」(57.3%)、「倍速や一時停止機能などが使えるから」(54.7%)、「公民館や大学などの会場に直接行けないから」(15.3%)と続いている。

### (1-3) 「生涯学習活動」をしたことがない理由

「生涯学習活動をしたことがない」を選んだ理由をたずねたところ、「きっかけがないから」(52.7%)は5割半ばで最も高くなっている。次いで、「仕事や家事が忙しく、時間がないから」(34.6%)、「健康上の理由で楽しめないから」(8.4%)、「希望する時間帯に講座がないから」(5.3%)と続いている。

### (1-3-1) オンライン学習（オンデマンド配信）であれば、学習するか

いつでもどこでも見たい時に繰り返し講座が受講できるオンライン学習（オンデマンド配信）であれば、講座を受講するかたずねたところ、「受講する」(41.9%)は4割を超えている。一方、「受講しない」(45.2%)は4割半ばとなっている。

### (1-3-1-1) 市からの情報の発信に利用するツールについて

市からは、どのようなツールを利用して情報を発信して欲しいかたずねたところ、「広報さのみはら」(61.5%)は6割を超えて最も高くなっている。次いで、「LINE」(38.5%)、「ホームページ」(30.8%)、「地域情報誌」、「募集チラシ・ポスター」、「X(旧Twitter)」(各15.4%)、「Facebook」、「Instagram」(各7.7%)と続いている。

## 4 障害者への理解促進について

### (1) 「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズとデザインの認知度

「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズとそれをモチーフとしたデザインを知っているかたずねたところ、「知っている」(23.5%)は2割半ばとなっている。一方、「知らない」(72.6%)は7割半ばとなっている。

## (2) 市民の障害への理解に必要なこと

市民の障害への理解を深めるために、特に何が重要だと思うかたずねたところ、「学校における福祉教育の充実」(18.5%)が最も高く、2割近くとなっている。次いで、「障害や障害者問題に関する啓発の充実」(14.4%)、「障害のある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」(14.3%)、「障害のある人の積極的な社会への進出」(11.5%)と続いている。また、「理解を深める必要はない」(0.9%)はごく僅かとなっている。

## 5 結婚について

### (1) 結婚することの利点

結婚することにはどのような利点があると思うかたずねたところ、「自分の家族や子供が持てる」(64.9%)が最も高く、6割半ばとなっている。次いで、「人間として成長できる」(47.6%)、「精神的な安らぎの場が得られる」(46.1%)、「愛情を感じている相手と暮らせる」(36.9%)、「親や周囲を安心させられる」(23.6%)、「経済的に余裕が持てる」(13.5%)と続いている。

### (2) 独身でいることの利点

独身でいることにはどのような利点があると思うかたずねたところ、「行動や生き方が自由である」(74.3%)が最も高く、7割半ばとなっている。次いで、「家族を養う責任がなく、気楽である」(33.5%)、「金銭的に裕福である」(25.8%)、「住宅や生活環境などの選択肢の幅が広い」(25.6%)、「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」(20.4%)、「恋愛が自由である」(19.7%)と続いている。

### (3) 晩婚化や未婚化が進んでいることの主な原因

晩婚化や未婚化が進んでいることの主な原因についてたずねたところ、「家族や子どもをもつことに経済的不安がある」(43.9%)が最も高く、4割半ばとなっている。次いで、「適当な相手にめぐり合う機会がない」(32.7%)、「独身の方が自由で気楽・快適である」(32.0%)、「ひとりでも十分に充実した生活を送れる」(30.5%)、「結婚すること／しないことに世間のこだわりが少なくなった」(26.9%)、「相手との人間関係を築くことが面倒、または難しい」(17.4%)と続いている。

### (4) 晩婚化や未婚化への必要な対策

晩婚化や未婚化に歯止めをかけるために、特に必要な対策はなにかたずねたところ、「仕事と家庭生活の両立支援」(34.8%)が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「妊娠・出産にかかる経済的負担の軽減」(34.3%)、「幼少期から学齢期(小・中学生)の子育てにかかる経済的負担の軽減」(33.7%)、「社会全体で若者の自立や子育てを支援する意識づくり」(28.0%)、「出会いの機会の提供等の結婚支援」(26.9%)、「大学教育費用の負担の軽減」(21.8%)、「若者の就業への支援」(21.5%)と続いている。

## 6 ユニバーサルデザインについて

### (1) ユニバーサルデザインの認知度

ユニバーサルデザインについてどの程度知っているかたずねたところ、「言葉自体を知らない」(39.9%)が約4割と最も高く、次いで、「言葉も考え方も知っている」(29.5%)、「言葉は知っているが考え方は知らない」(27.6%)と続いている。

### (2) ユニバーサルデザインの考えを優先的に取り入れていくべき分野

ユニバーサルデザインの考え方を優先的に取り入れていくべき分野だとあなたが思うものはどれかたずねたところ、「自らの知識や経験を生かすことのできる活動の場の紹介」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで、「生きがいや交流の場となる高齢者の施設等の充実」(35.2%)、「知識や技能を習得するための学習機会の提供」(29.2%)、「高齢者の就労支援」(27.9%)、「地域活動や社会奉仕活動などを行う団体への参加促進や支援」(22.0%)と続いている。

## 7 市の施設の駐車場の有料化について

### (1) 市の施設(公園・体育館・区合同庁舎など)の利用頻度

市の施設(公園・体育館・区合同庁舎など)の利用頻度についてたずねたところ、「ほとんど使うことはない」(34.2%)が3割半ばで最も高くなっている。次いで、「1年に数回程度」(24.7%)、「月に1回程度」(9.4%)と続いている。

### (2) 市の施設(公園・体育館・区合同庁舎など)に行くときの主な交通手段

市の施設(公園・体育館・区合同庁舎など)に行くときの主な交通手段についてたずねたところ、「自家用車」(48.0%)が最も高く、5割近くとなっている。次いで、「徒歩」(20.5%)、「自転車」(16.4%)と続いている。

### (3) 市の施設の駐車場(公園・体育館・区合同庁舎などの駐車場)の有料化について

市の施設の駐車場(公園・体育館・区合同庁舎などの駐車場)の有料化についてどのように思いかたずねたところ、「有料化はやむを得ないが、料金等は配慮をした方がよい」(41.0%)が約4割で最も高く、次いで、「有料化すべきでない」(27.4%)、「どちらかといえば有料化すべきでない」(21.9%)、「有料化すべき」(6.3%)と続いている。

#### (3-1) 有料化する場合に配慮すべきこと

現在無料としている市の施設の駐車場(公園・体育館・区合同庁舎などの駐車場)を有料化する場合、どのようなことに配慮すべきかたずねたところ、「無料時間の設定」(43.5%)が4割半ばで最も高く、次いで、「施設利用者への料金割引」(33.8%)、「低めの料金設定」(19.4%)と続いている。

## 8 ICTに関する利用状況について

### (1) インターネットを利用する機器について

ふだんどのような機器でインターネットを利用しているかたずねたところ、「スマートフォン」(76.9%)が7割半ばで最も高く、次いで、「自宅のパソコン」(45.7%)、「タブレット端末」(23.9%)、「自宅以外のパソコン」(20.5%)、「インターネットに接続できるテレビ」(15.2%)、「携帯電話」(14.0%)と続いている。一方、「インターネットは利用していない」(10.4%)は約1割となっている。

### (2) 利用したことのある相模原市のICTを活用したサービス

ICTを活用した相模原市のサービスを利用したことがあるかたずねたところ、「図書館蔵書検索・予約システム」(14.6%)、「スマートフォンアプリ」(13.2%)、「電子申請システム」(12.8%)、「さがみはらネットワークシステム(公共施設予約システム)」(10.6%)と続いている。一方、「利用したことはない」(51.8%)は5割を超えている。

### (3) 相模原市にICTを活用してほしい施策

今後、相模原市のどの施策にICTを活用してほしいかたずねたところ、「保健医療対策」(30.3%)が約3割で最も高く、次いで、「消防・防災対策」(26.4%)、「防犯対策」(22.2%)、「保育・児童・子育て対策」(19.9%)、「高齢者対策」、「学校教育の充実」(19.7%)、「環境・ごみ・リサイクル対策」(19.6%)と続いている。

### (4) 相模原市のICTを活用した施策について

相模原市がICTを活用した施策をどのようにすべきかたずねたところ、「今よりさらに進めるべき」(23.6%)と「優先順位をつけ段階的に進めるべき」(44.4%)の2つを合わせた「進めるべき(計)」(68.0%)は7割近くとなっている。一方、「あまり進めるべきではない」(1.6%)と「進めるべきではない」(1.0%)の2つを合わせた「進めるべきではない(計)」(2.6%)は僅かとなっている。

## 9 学校教育について

### (1) 相模原市の学校教育の特色について

相模原市の学校教育について、どのようなことが特色であると思うかたずねたところ、「豊かな心を育む教育の推進」(24.4%)が2割半ばで最も高く、次いで、「地域と学校の連携・協働」(13.8%)、「多様性の理解や人権意識の向上」(12.6%)、「グローバルに活躍できる力の育成」(12.3%)、「学力の向上に向けた取組の推進」(11.7%)、「つながりを意識した教育活動の展開」(11.3%)と続いている。

### (2) 学校教育で期待する力(こと)

学校教育で、どのような力(こと)を育むことを期待するかたずねたところ、「基礎的な学力(文章を読み書きする力、計算する力)」(61.8%)が6割を超えて最も高く、次いで、「感性や思いやり」(54.6%)、「様々な問題を解決する力」(50.0%)、「英語力や国際感覚」(36.3%)、「自ら家庭学習に取り組む力」(19.6%)、「望ましい生活習慣」(15.3%)と続いている。

### (3) 学校教育で伸ばすべき能力

国際社会で活躍できる人を育てていくために、学校教育においてどのような能力を伸ばしていくことが重要であるかたずねたところ、「語学力・コミュニケーション能力」(78.7%)が8割近くで最も高く、次いで、「異文化の理解」(45.6%)、「主体性や積極性」(44.9%)、「日本文化に対する理解」(42.1%)、「国際社会の動向等についての幅広い教養」(37.9%)と続いている。

### (4) 学校教育で大切な取組

子どもたちが将来の生き方を考えるために、学校教育においてどのような取組みが大切だと思うかたずねたところ、「体験活動」(67.9%)が7割近くで最も高く、次いで、「学校以外の幅広い人材を活用した講話」(51.8%)、「地域と連携した協働的な活動」(32.3%)、「教科の学習」(30.9%)、「家庭との連携」(27.8%)、「小中一貫の取組」(13.5%)と続いている。

### (5) 中学校部活動を地域のスポーツ・文化芸術活動に移行するにあたり大切なこと

部活動を地域のスポーツ・文化芸術活動に移行するにあたり、どのようなことが大切だと思うかたずねたところ、「スポーツ・文化芸術活動を選択できる環境整備」(56.1%)が5割半ばで最も高く、次いで、「事故・ハラスメントの防止」(51.5%)、「専門的な指導」(42.0%)、「活動場所の確保」(39.4%)、「指導者への適切な報酬」(38.7%)、「学校や教員の関わり」(24.2%)、「地域の方との交流」(18.2%)、「保護者の関わり」(16.5%)と続いている。

### (6) 中学校部活動が地域のスポーツ・文化芸術活動となった場合の必要な費用について

中学校の部活動が地域のスポーツ・文化芸術活動となった場合に必要な費用(道具等の実費を除く)についてどのように考えるかたずねたところ、「家庭と公費の両方」(46.9%)が4割半ばで最も高く、次いで、「国や市が負担する公費」(39.5%)、「参加する中学生の家庭で負担すべき」(9.8%)と続いている。

### (7) 「地域とともにある学校」のイメージについて

「地域とともにある学校」のイメージとして、どのようなことがあてはまると思うかたずねたところ、「子どもの居場所が、学校以外にもある」(52.5%)が5割を超えて最も高く、次いで、「学校施設を気軽に利用できる」(33.7%)、「地域に学習支援の場がある」(31.5%)、「学校と近隣にある企業が連携した授業」(30.9%)、「子どもが地域行事に参加する」(25.4%)と続いている。

## 10 世論調査について

### (1) 来年度以降の世論調査の回答方法について

来年度以降の世論調査について、どの回答方法が良いと思うかたずねたところ、「インターネットまたは郵送の選択式」(59.7%)が約6割で最も高く、次いで、「郵送のみ」(26.2%)、「インターネットのみ」(9.7%)と続いている。